

第23回運転交流会開催



11月11日から12日にかけて湯河原温泉ホテル「あかね」において、第23回東日本運転交流会が開催され、東日本の九地本48名が集いました。(今回は10月の外注化によって出向となった仲間が、休みが取れずに参加できず、例年よりも少数となりました)

交流会の座長には東京運車協中野電車区の金子さんを選出し、議事進行をお願いしました。

はじめに新議長の長谷川議長から検修・構内の外注化に触れ、「委託先での労働条件改善を私たちの要求だけでなく、全体的な要求を掲げていく中で組織の拡大を図っていくことが求められて



いる。乗務員勤務の問題では、全国連絡会で提起された議論を基に具体的な議論を交わしていただきたい」と挨拶がされました。



続いて東日本本部・松井書記長から、「10月強行された検修・構内の外注化について、本社交渉での中身と現場での違いを検証していきたい。国労の最大課題である組織の強化拡大が求められている。会社は乗務員を除く職種に対しては外注化をこの先も進めてくるであろうことが見られることから、労働組合として外注先に対しての交渉を求める為に①労組法に基づき交渉ができる体制作り②労使間ルールを作って機関整備を図ることが求められている。」③年末手当に関するこの間の動きについての報告がされました。

続いて準備地本を代表して東京地方本部・稲荷副委員長から「10月実施された検修・構内の外注化について見直し交渉ができるよう、職場の調査・点検の強化を図っていきたい」「組織の強化・拡大について、皆で目標を決めてみんなでやりきっていく体制を作っていきたい。外注先に国労の組織と一緒に作っていくことをお願いしたい」と報告されました。



続いて東日本工作協議会・小野議長から、「今回の検修・構内の外注化は当初1,250名の提案であったが、大幅に減少された約830名でスタートしました。会社の修正提案もされましたが、会社自身もこの施策に自信を持っているとは見られない中身となっています。同時に私達の運動の成果で会社を追い込んでいることに確信をもちながら、今後も工作協議会としても運転の皆さんと共に施策を撤回するために歩調を共にしていきたい」と、力強い挨拶を受けました。



来賓の皆さんからの挨拶をいただき、記念講演として福田 護弁護士から「業務委託・外注化と労使関係、偽装請負問題などに付いて」を学習しました。

講演内容については、I・業務委託と請負及び偽装請負(労働者派遣)について(1)JR東日本の業務委託・外注化(2)請負と労働者派遣(3)JR東日本の外注構造(業務処理請負)と労使関係①外注請負とJR労働者②労使関係・交渉当事者などの問題点(4)偽装請負について①請負が労働者供給事業にならないための要件②請負が実質上の労働者派遣(=偽装請負)にならないための要件

II・非正規雇用労働者の問題について(1)格差と貧困の社会、日本(2)非正規雇用労働者とその増大(3)労働法規制の規制緩和(4)労働者派遣の問題点と法改正①労働者派遣の問題性②労働者派遣法改正(5)有期雇用=不安定雇用の中心問題(6)有期雇用に関する法制度①従来からの法制度②有期雇用制度(労働契約法)の改正③

有期労働契約法性のあるべき方向性について

Ⅲ・新自由主義の克服と労働組合の役割(1)どういふ働き方と、どういふ社会が望ましいのか(何をなくしたのか)
(2)労働組合という組織の意義について、1時間を超える熱い講演を受けました。

講演を受けての質疑について会場から何点か出されましたが、快く回答してくださいました。

福田先生からの提起として「今後も皆さんと共に私自身もJRの実態を学習しながら、問題解決に向けて一緒に頑張っていきたい」と嬉しい言葉を頂き、さらに学習の必要性を実感しました。

その後、6班に分かれての分散会となりました。

1・2班「乗務員勤務改善に向けての職場活動について」(食う・寝る・トイレは話題になっているか)

3班「乗務員勤務改善に向けての職場活動について」(ワンマン運転における問題点について)

4・5班「検修外注化施策において職場で出ている問題点と組織拡大・見直し要求と出向先での運動の進め方について」

6班「新幹線職場で出ている問題点と組織拡大について」

お互いに議論を交わしていただきました。

夕食交流会では、各地方からの美味しい水？のお披露目で盛り上がり交流してきました。



本年定期委員会で東日本運転協議会議長を退任された木立前議長に気持ちばかりであります、新議長の長谷川議長から記念品を進呈させていただきました。

5年間ご苦労様でした。

宴の時間というのはあっという間に過ぎてしまい、夜の分散会へと突入しましたが、随分遅くまで議論を交わしていた班もあったようです・・・

翌日の会議は8時30分からいつもよりも早く再開となり、夜遅くまでの議論を持ち寄り、各地方報告並びに分散会報告が行われました。(紙面の関係で割愛させていただきます)



東日本本部武笠執行委員から「本日集まっていた皆さんが職場に帰り、議論し要求を作って頂きたい。その為の調査・点検の積み重ねで、会社の回答を引き出していく。同時に職場合意形成・世論への訴えなど、幅広い活動で安全・安心な鉄道を作っていきます。その為にも国労綱領に掲げた産業別労働組合を目指す運動を構築していきます」と発言されました。



今交流会のまとめとして長谷川議長から「今回の参加者は48名でしたが、皆さんがこれで職場に戻り、今日の交流会を報告していただきながら、外注化施策に対する問題として多く声が出された①作業責任者について会社は「精通した者を配置する」と言ったが実態はどうなっているのか？②技術継承としてのプロパー社員の育成についてどのような教育をおこなうのか？(他JR会社では自分の作業で手一杯プロパーの教育どころではないとの声あり)③組織強化拡大を大胆に取り組む④安全問題について(労働強化で労災も危ぶまれる実態を明らかにしていこう)⑤来年は仙台での交流会の予定ですので、

そこには一年間の成果を持ち寄りお互いに笑顔でお会いしましょう。と提起されました。

最後に長谷川議長の音頭で「団結頑張ろう」を三唱し、お互いに一年間の運動を確認し、閉会となりました。

参加された皆さん二日間ご苦労様でした。

並びに準備していただいた東京地方本部運車協議会の皆さんありがとうございました。

